令和7年度 第1回 普及活動検討会 外部評価用資料

プロジェクト課題No.2 気仙沼・南三陸地域のクロマツ栽培者の育成と 作付面積の拡大





対象名:株式会社南三陸Pine Pro(パインプロ)、

みやぎクロマツ研究会 気仙沼市・南三陸町会員、栽培希望者

計画期間:令和7年度~9年度

担当チーム員: ◎足立、村主、清水、遠藤

1 課題の背景

- ■昨年は播種したクロマツ種子や新芽が野鳥の被害を受け、苗の 生育本数は67本/㎡程度と少なかった。 (本来は、200本/㎡を想定)
- ■管内にクロマツ生産者は、南三陸Pine Proの他に「みやぎクロマツ研究会員」が3名いるが、それぞれ経験や知識に差があるため、技術の平準化が必要。
- ■遊休農地を少しでも減らしたいと考え、クロマツ栽培に興味を持った方が、令和7年からクロマツのセルトレイ育苗を開始した。順調に苗が確保できれば仲間内に苗を配布し、作付け面積を拡大する意向。

2 今年度の目標

- ① 個別指導により苗生産技術が向上し苗が確保される R7 100本/㎡ → R8 150本/㎡ → R9 200本/㎡
- ② 生産者間の技術格差が平準化される。
- ③ 新たな育苗方式が検討される。

数值目標

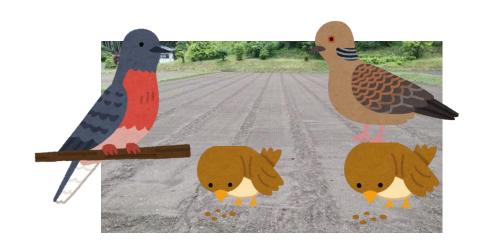
気仙沼・南三陸地域の作付面積の拡大

R6:535a \rightarrow R7:545a \rightarrow R8:565a \rightarrow R9:590a

①苗本数(100本/㎡)確保の検討

【昨年の状況】

- 新たな播種機を用いたが、種子が土中に埋まらず、 さらに大雨で種子が露出し、山鳩の食害被害。
- ・再播種し、多数出芽したが、新芽が野鳥の被害。
- ・令和6年7月31日の調査で、67本/㎡であった。



3 活 動 内 容

①苗本数(100本/㎡)確保の検討

昨年度の反省を踏まえて播種方法を改善



播種後,管理機で覆土



ベニア板で鎮圧



鳥対策で畝ごとにネット

①苗本数(100本/㎡)確保の検討

降雨不足で発芽不良や生 育不良が見られた。





125本/㎡



212本/m²

調査結果

	圃場A	圃場B	圃場C	3カ所平均
本数/㎡	138.0	92.8	182.7	138.0

3カ所平均 → 138本/㎡ 目標の苗本数100本/㎡達成!

理想は200本/㎡の苗の確保であるため、さらなる改善が必要。

②技術の平準化

初めて播種をするM氏(栽培は4年目)の播種作業を 南三陸Pine Proと普及センターで支援



圃 場 土壌分析の結果、石灰過剰でpHが 高すぎることから、硫黄華を投入し、 1ヶ月落ち着かせてから播種



M氏とPine Proの皆様



鎮圧。ベニア板は大変だった ため、今回はローラーを使用



播種機で播種し、管理機で覆土



鳥害対策として圃場全面にネット

- ②技術の平準化 初めて播種をするM氏の播種作業支援
 - ・圃場全体をネットで覆った結果、野鳥 の被害はなし。
 - ・播種後は降雨があったため、発芽は良 好。
 - ・しかし、今年の高温・少雨で生育が 進まず、枯死する個体が出てきている。 今後の降雨で生育回復を期待。
 - ・100本/㎡には届かなかった。





②技術の平準化



先進地·茨城県生産者 との交流会

M氏の技術習得の取り組み

◎交流会及び検討会に参加し積極的に技術習得



県主催クロマツ播種研修会 →秋田県生産者から技術を習得



県主催クロマツ広域検討会 →各地の技術習得

②技術の平準化 気仙沼・南三陸地域枝ものクロマツ現地検討会

・気仙沼・南三陸地域のクロマツ生産者は交流がなく、単独で栽培していることから、 現地検討会を開催(6月20日)。

参集:南三陸Pine Pro

管内みやぎクロマツ研究会員

関係機関

・(株)Pine Pro後藤代表からのアドバイスや管内のクロマツ生産者との情報交換により、各々クロマツ栽培への意欲の高まりが伺えた。



②技術の平準化 圃場視察・情報交換会

- ・今年新たにクロマツ栽培を開始した生産者とクロマツ栽培3年目の生産者との圃場視察及び情報交換会を開催(7月10日)。
- ・お互いに連絡先を交換し、移植用 の道具を借りる約束をするなど交 流が生まれた。





移植用道具

③クロマツ苗の育苗試験

【目的】

枝もの用クロマツの育苗において、現行の露地直播き栽培は、雑草繁茂や鳥害で苗本数が確保できないことが多い。

そこで、セルトレイ用いた育苗方法とその播種時期の検討、さらに、 黒ポット・すくすくトレイ・森林苗用コンテナに移植する育苗方法を検 討する。

【試験場所】 気仙沼市大島 E氏パイプハウス

【試験区】

5月播種区黒ポット6月播種区× すくすくトレイ7月播種区森林苗用コンテナ ※6月播種区、7月播種区のみ

3 活 動 内 容

③ クロマツ苗の育苗試験 【播 種】

> 5月播種区 6月播種区 7月播種区



128穴セルトレイ

【移 植】

播種から約1ヶ月半後





黒ポット(9cm)48個



すくすくトレー(24穴)×2トレー



3月頃露地に定植







森林苗用コンテナ(30穴)×2枚

※森林苗用コンテナは6月播種区と 7月播種区のみ

③クロマツ苗の育苗試験

【耕種概要】

種 子 E氏が自生クロマツの松ぼっくりから採取した種子

播 種 播種日 表のとおり

資 材 128穴セルトレイ

培 土 E氏オリジナルブレンド

(園芸用種まき培土、腐葉土、5%アーク牧場たい肥)



クロマツ種子

前日から水に浸漬した種子を

128穴セルトレイに3粒/穴で播種

移 植 移植日 表のとおり

資材 9cm黒ポット

すくすくトレイ

森林苗用コンテナ

培 土 赤玉:腐葉土 1:1

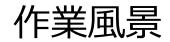
肥 料 エコロングトータル 2g/ℓ

試験区	播種日	移植日
5月播種区	5月16日	7月3日
6月播種区	6月17日	8月4日
7月播種区	7月16日	9月5日

※播種後、2週間程度で出芽し、1カ月程度で出揃う。 出揃ってから1~2週間後移植

3 活 動 内 容

③クロマツ苗の育苗試験





播種



クロマツ栽培中のパイプハウス



セルトレイ育苗の様子



移植用ポット等に土詰め

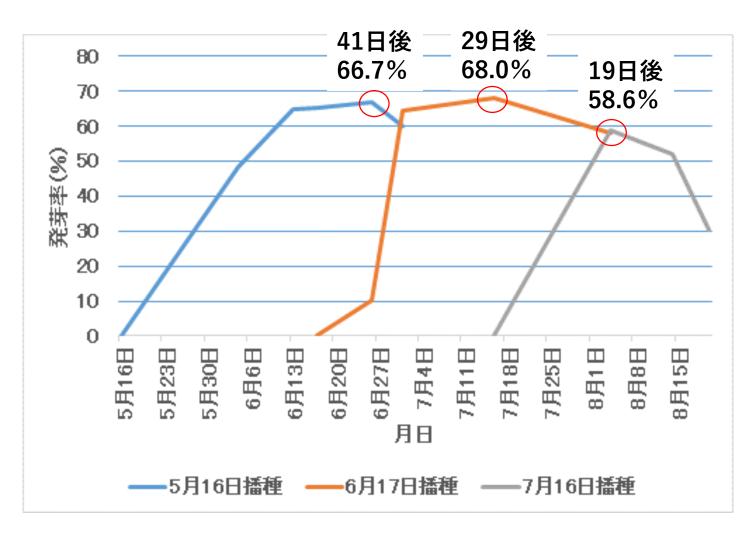


移植



移植後

③クロマツ苗の育苗試験 セルトレイ播種 発芽率調査



- ■発芽率のピークは、 5月16日播種区は41日後で66.7% 6月17日播種区は29日後で68.0% 7月16日播種区は19日後で58.6%
- ■播種月が遅くなるにつれ、発芽の ピーク日数は短縮。
- ■7月は発芽率がやや悪く、発芽後枯 死する苗が多い。



4数值用標

数值目標

気仙沼・南三陸地域の作付面積の拡大

 $R6:535a \rightarrow R7:545a \rightarrow R8:565a \rightarrow R9:590a$

令和7年8月時点の作付面積

537a

※令和6年のクロマツ作付面積は見込みで535aとしていたが、最終的には525aとなった。 令和7年は12a増加。



4 今後の対応(動き)

- ① 現在生育中の苗が維持できるよう雑草対策や病害虫対策を支援する。
- ② 12月の出荷に向けて、管内のクロマツ生産者の検討会又は情報 交換会を開催する。
- ③ クロマツ育苗における黒ポット、すくすくトレイ、森林苗用コンテナの有効性について引き続き調査する。
- 令和6年のプロジェクト課題で取り組んだ除草剤(シバゲンDF) のクロマツへの適用拡大試験により、現在、石原バイオサイエンス株式会社がクロマツへの登録を申請中。来年の3月には登録され、令和8年の栽培から活用できる見込み。

プロジェクト課題 NO.2

気仙沼・南三陸地域のクロマツ栽培者の育成と作付面積の拡大

令和7年9月2日 気仙沼農業改良普及センター

花材としてのクロマツについて

- ・クロマツは、お正月用の松飾りや仏花、生け花用に欠かせない花材であり、輸入品(主 に中国)も多くなっている昨今、国産に対する需要は大きくなっている。
 - ※国内の主要産地は茨城県
- ・側枝は関西の仏花やアレンジメント、神棚飾り等の用途で、「小松」として出荷する。
- ・松飾り等に使用する「若松」は、定植から3~4年間かけて栽培した主枝を出荷する。
- ・その他、さまざまな規格で用途に合わせた出荷が行われる。



小 松: 側枝。定植2年目から収穫可能

若 松: 3~4年かけて栽培した主枝

<使用例>

若松



小 松





若 松 ※使用例の画像はインターネットより転載

枝もの用クロマツ栽培の流れ

① 播種 5月中下旬に実施 ② 育苗期間は約1年 3月の苗の様子 ③定植のため苗を掘り取り 3月下旬に実施 ③ 掘り取った苗 ⑤苗の定植作業 苗掘り取りから順次実施 ⑥定植1年目の姿 根が活着すると新芽が伸長 ⑦定植2年目の姿 夏から秋にかけ伸長 ⑧定植3年目の姿 1m程度の草丈まで伸長

⑨収穫作業実施 専用バリカンで刈り取り



⑪規格毎に出荷まで保管 出荷は12月初旬



⑩出荷調整作業実施 余計な枝葉を除去



⑫出荷の姿 鉄製のパレットに詰め込み出荷

